

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28~29年度:計画作成主体:盛岡市農業再生協議会)(岩手県)

取組の概要

取組の概要 : 集出荷貯蔵施設の高度化による「高品質・高付加価値りんご」の販売を展開し、販売額の増加を実現する。

対象品目 : りんご(産地面積:99ha)

主な取組主体 : 岩手中央農業協同組合

成果目標 : 販売額の10%以上の増加(総販売額)

導入施設等 : 整備事業(集出荷貯蔵施設(予冷室, スマートフレッシュ処理室, 貯蔵室), 選果機)

ポイント

- 選果機の機能強化により選果作業中の果実への損傷防止が図られ、販売単価向上が可能となる。
- 予冷施設の整備により販売期間の延長が図られ、実需者への長期的・安定的な供給が可能となる。

地区の概要



産地体制

関係機関(盛岡広域振興局, 盛岡市), 生産部会及びJAが連携し、事業実施地域内りんご農家の規模拡大に向けた支援や、経営管理の合理化に向けたフォローアップを実施

地域における独自の取組

〈主な取組〉

商談活動及び宣伝販売活動の実施。また、ホームページ等により産地の取組に関する情報発信を行い知名度向上を図る。

取組成果

- 集出荷貯蔵施設の高度化により、作業能率の向上とともに高品質化が図られ、安定供給を実現した。
- スマートフレッシュ処理能力の向上により、販売期間の延長や輸出量の増大等につながり、国内外での産地ブランド力の強化を実現した。



販売額が45%増加
(達成率233%)

~りんごの販売額~

